

こんにちは。とうとう10ヶ月の留学プログラムも終わりを迎え、先週日本に帰ってきました。留学を始めた最初の方は10ヶ月という期間がとても長く思えましたが、慣れてきてからはあっという間に時間が過ぎてしまい、いざ終わってみるととても短かったように思えます。

私は、この次世代リーダー育成道場のプログラムに応募することについて実はとても不安でした。中学三年生の時にも応募の機会があったのですが、日本の勉強に追いつけなくなる、大学でも留学できる、などを理由にして応募しませんでした。でも実際プログラムの先輩方の話を聞いて、ここで応募しなかったら一生後悔すると思って高校一年生でAコースに応募し、ありがたいことに合格することができました。同学年のみんなと一緒に卒業したいという気持ちがあり学年は下げない、という選択をしたので勉強は人一倍頑張らなければいけません、プログラムに応募して後悔はありません。むしろ、10ヶ月という期間の中で学んだことは高校生で留学したからこそ学んだことばかりで、日本にいたら得ることができなかつたと思います。

オーストラリアでの10ヶ月の生活を通して、もちろん英語力は成長しましたが、そのほかに日本という国を客観的にみることができる「視点」を得ることができました。例えば、私が10ヶ月を通して通年感じていたことは、オーストラリアではIndividualism(個人主義)である人が多く、どちらかというところ集団行動や協調性を大切にする日本の国民性とは正反対だということです。日本人の私は個人主義である社会に溶け込むのは少し大変でしたが、新しい自分を発見していけるようでとても楽しかったです。他にも、コロナウイルスへの対策でも大きな違いがみられました。私が留学していたクイーンズランド州ではコロナウイルスの新規感染者はほとんどいなかったのに関わらず、レストランは定員制限があり、必ずテーブルは一つ空けになっていました。また、レストラン、カフェ、美術館、図書館、遊園地などの感染のリスクが少しでもある施設に入る際には感染経路を明確化するための住所、連絡先登録が必要でした。それに比べて日本はどうしてもまだ対策し足りていないところがあると感じます。また、オーストラリアで歴史を学んでいて驚いたのが、第二次世界大戦中に日本によるオーストラリアへの大規模な空襲が行われていたということです。世界史の授業を一回も受けていないので高校では分かりませんが、少なくとも日本の義務教育である中学校の歴史の授業ではこの話題について一切触れませんでした。オーストラリアはずっと親日国だと思っていたので、日豪の当時の対立や日本によるオーストラリアへの莫大な被害をもたらした空襲について全く知らなかった自分が留学している身としてとても恥ずかしくなりました。国によって社会の教科書の書かれ方が全く異なるように、一つの物事を学ぶにもたくさんの視点、見方があり、どこに焦点を当てるか、どこを切り取るかで見え方や感じ方、考え方までコントロールされてしまいます。この留学を通して、何かを信じる前に本当にその情報や考えが正しいのか、他にどんな見方があるかなど多くの「視点」を持つことができるようになったと思います。

このプログラムを通して自分が想像していたよりたくさんの貴重な体験し多くのものを得ることができました。この留学の機会を与えてくださった先生方、東京都の教職員の方々、家族にとっても感謝しています。またコロナ禍の中でも留学プログラムを10ヶ月継続させていただけたのは本当に幸運なことだと思います。このプログラムの経験を活かして本当の次世代のリーダーとして将来活躍できるよう、これからもさらに成長していきたいです。

白鷗高校 12期生 次世代リーダー8期生 A.S